

論文内容の要旨

論文題目

中山間地域の人口移動と少子化に影響を及ぼす要因 —宮崎県椎葉村を対象として—

指導教員 今井秀樹教授

東京医療保健大学大学院 看護学研究科

平成 29 年 4 月入学

博士課程看護学専攻

日高未希恵

I. 諸言

日本は世界に先駆け、少子高齢化・人口減少社会に直面している(梅崎 2018)。現代日本の人口減少は晩婚化および晩産化による少子化に由来し(岩澤 2002)、非大都市圏では大都市圏への若者層中心の人口移動により人口減少が加速度的に進んでいる。中でも中山間地域が含まれる市町村は、すでに約 7 割が過疎地域に指定されるなど、取り巻く環境は一層厳しい(農林水産省 2019)。各自治体が対策に取り組んでいるものの、Uターン者、移入者の増加といった定住者を増加させる効果が得られていないとは言い難い。こうした背景をふまえ本研究では県土の約 9 割が中山間地域で、全国的にも長年出生率が上位の宮崎県において、特に出生率が高く、神楽等伝承文化の継承が盛んで文化的にも特徴のある椎葉村を調査地とし、生物学的な視点と文化的な視点を重ね持つ人類生態学的手法から中山間地域の社会文化的特性、シビックプライドおよび再生産年齢女性人口に着目し、中山間地域の人口移動や少子化に影響を与える要因について、より多角的に検討することを目的とした。

II. 研究方法

本研究は次の手順で進めた。① 日本の、特に中山間地域での少子高齢化・人口減少

の状況を整理する。② 椎葉村の中でも人口減少率が低く出生数が多い尾向地区の社会文化的な地域特性をエスノグラフィーに拠り質的に検討する。③ 椎葉村の 19 歳以上の者（2427 人）を対象とした質問紙調査を実施し、②で得られた 4 つの Domain を用い中山間地域振興尺度の開発を行ったうえで、中山間地域振興尺度および既存のシビックプライド尺度（伊藤 2017）と人口移動および少子化との関連を検討する。

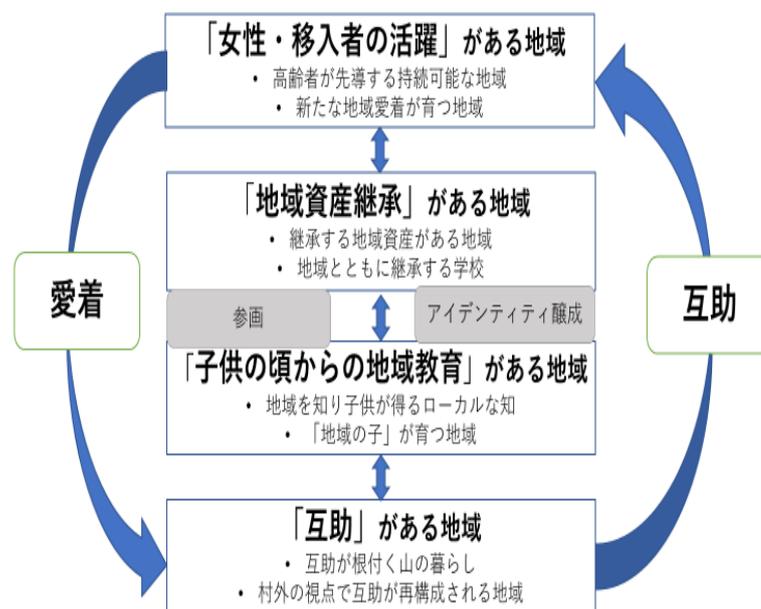
本研究は、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：院 29-23）。本研究において、開示すべき COI 情報はない。

III. 結果

2017 年 8 月 2018 年から 5 月に、主に参与観察と半構造化インタビュー（42 名）を行い、椎葉村の中で人口減少率が低く出生数が多い尾向地区の社会文化的な地域特性を質的に検討した。その結果「地域資産継承と地域教育を軸に互助と愛着が廻る地域」という Main theme のもとに「互助」、「地域資産継承」、「子供の頃から地域教育」

および「女性・移入者の活躍」という 4 つの Domain が抽出された（図 1）。

得られた 4 つの Domain を用いた中山間地域振興尺度を開発し、その尺度およびシビックプライド尺度と人口移動および少子化との関連を検証するため、2018 年 8 月に質問紙調査を行った結果、1120 部の回答を得た（回収率 46%）。新たに開発した中山間地域振興尺度は最尤法・Promax 回転による探索的因子分析の結果、【地域資産継承（ $\alpha=0.867$ ）】、【互助（ $\alpha=0.920$ ）】および【女性・移入者の活躍（ $\alpha=0.722$ ）】の 3 因子となり、モデル適合度は $\chi^2(\text{CMIN})=500.080$, $df=74$, $p<0.001$, $GFI=0.901$, $AGFI=0.859$, $RMSEA=0.091$ であり適合度は高いと判断した。また既存のシビックプライド尺度（伊藤 2017）は最尤法・Promax 回転による探索的因子分析の結果、本研究では【愛着（ $\alpha=0.885$ ）】、【アイデンティティ（ $\alpha=0.797$ ）】および【参画（ $\alpha=0.736$ ）】



【地域資産継承と地域教育を軸に互助と愛着が廻る地域】

図 1.研究結果関連図

の3因子となった。

中山間地域振興尺度の【互助】【地域資産継承】および【女性・移入者の活躍】、シビックプライド尺度の【愛着】、【アイデンティティ】および【参画】の尺度得点は、すべて地区行事の参加頻度と参加意欲との間に正の相関をみられた($p < 0.05$)。【互助】および【女性・移入者の活躍】、シビックプライド尺度の【愛着】および【アイデンティティ】の尺度得点は年齢との間に有意な正の相関がみられ、Iターン群は移動なし群に比べ有意に低値であった($p < 0.05$)。一方で中山間地域振興尺度の【地域資産継承】の尺度得点は家族や地域との繋がりがあると回答した者がないと回答した者に比べ有意に高かった($p < 0.05$) (表1)。一方、年齢および居住移動歴による差はみられなかった。

表1. 中山間地域振興尺度に対する個人の社会的背景の影響(2値応答ロジスティックモデル)

	n	互助			地域資産継承			女性・移入者活躍		
		OR	(95%CI)	P	OR	(95%CI)	P	OR	(95%CI)	P
子供の有無	610	1.3	(0.8-1.9)	0.29	1.5	(1.1-2.1)	0.01	1.1	(0.8-1.4)	0.57
配偶者の有無	653	1.1	(0.8-1.6)	0.53	1.9	(1.4-2.4)	0.00	1.0	(0.8-1.3)	1.03
家族育児協力の有無	355	0.8	(0.5-1.4)	0.43	1.9	(1.4-2.7)	0.00	0.7	(0.5-1.0)	0.52
家族以外の育児協力の有無	447	1.1	(0.7-1.7)	0.73	1.5	(1.1-2.1)	0.00	1.0	(0.8-1.3)	0.81
地区行事の参加頻度の高低	644	1.2	(0.8-1.7)	0.46	2.5	(1.9-3.3)	0.00	0.8	(0.7-1.0)	0.08
地区行事参加意欲の高低	580	3.0	(2.0-4.6)	0.00	1.6	(1.3-2.2)	0.00	1.3	(1.1-1.7)	0.02
暮らしの困難感の有無	585	1.2	(0.8-1.8)	0.33	1.0	(0.8-1.3)	0.97	0.6	(0.4-0.7)	0.00

※有無の場合(あり=1,なし=0)、高低の場合(高=1,低=0)とし検定

また19-49歳では男女ともに年少人口割合高位の地域は中位群と比べ、「地域資産継承」の尺度得点が高値であった($p < 0.05$) (図2)。

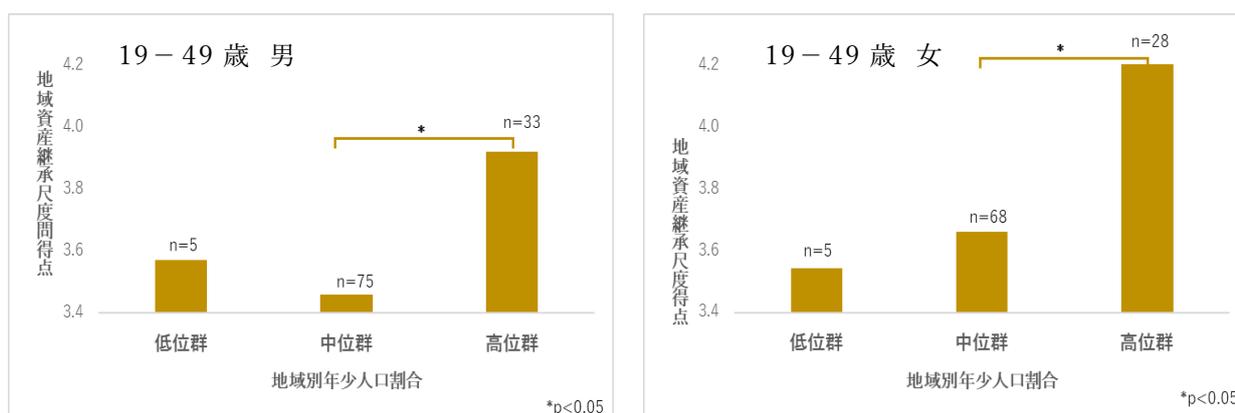


図2. 地区別年少人口割合別の地域資産継承(19-49歳 男)(19-49歳 女)

同様に19-49歳において女性はシビックプライド尺度の【愛着】、男性は【アイデンティティ】の尺度得点が年少人口割合高位の地域は中位群と比べ有意に高値であった

($p < 0.05$)。さらに年少人口割合高位の地域に住む 19-49 歳は【互助】、【地域資産継承】、【女性・移入者の活躍】、【愛着】および【アイデンティティ】の全てにおいて、男性に比べ女性の方が尺度得点は高値であった。

IV. 考察

【愛着】、【アイデンティティ】、【互助】および【女性・移入者の活躍】の尺度得点は年齢や居住移動歴との関連がみられ、地域での経験の長さが規定因の一つになる。一方で【地域資産継承】の尺度得点は年齢や居住移動歴との関連はないことから地域での経験の長さは規定因とならず、子供や配偶者の存在、育児協力、地区行事への参加など家族を含めた地域社会との繋がりといった現在の経験の質が【地域資産継承】の意識を醸成する可能性がある。このことは他の項目に比べ【地域資産継承】の意識は地域に住み続ける者だけでなく、村外からの移入者でも醸成されやすく、流入人口を受け入れる際の強みとなる可能性が示唆された。また 19-49 歳の年少人口割合高位群は中位群および低位群に比べ、【地域資産継承】、【愛着】および【アイデンティティ】の尺度得点が高いことから、子供の存在がそれらの意識を高める規定因となりうることが考えられ、少子化だからこそ地域に子供がいることの重要性が示された可能性がある。さらに 19-49 歳の女性は婚姻による移入者が多く居住歴が短いという条件にも拘らず、年少人口割合高位の地域に居住するは、【愛着】、【アイデンティティ】、【互助】、【女性・移入者の活躍】および【地域資産継承】全てにおいて尺度得点は男性より女性のほうが高値であった。このことから 19-49 歳の女性は居住移動歴にかかわらず、結婚、出産、育児など地域との繋がりといった地域での経験を通して中山間地域振興の意識およびシビックプライドが醸成される可能性があるということが考えられる。

V. 結語

【地域資産継承】の意識は現在の地域での経験の質によって醸成されることから移入者でも醸成されやすい可能性がある。特に 19-49 歳の女性は結婚、出産、育児など地域との繋がりといった地域での経験を通して中山間地域振興の意識およびシビックプライドが醸成される可能性がある。また 6 つの下位尺度の意識は全て実際の地域行事の参加頻度および参加意欲の高さとの間に正の相関関係を持つことが示された。